

よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹、幼少の頃の愛称です。



論語から学ぼう

(記念館玄関案内看板に掲示中)

《 第85号 》 (令和5年度第2号) 7月 発行

早いものでもう夏を迎えます！
暑さにまけないで！

よえもん君が自分の
一生を簡単に紹介します。



暑い日が続きます。今年は2年ぶりに「了佐てらこや小学校」を開校予定です。習字や論語の素読、クラフト、藤樹学習等を予定しています。

論語「衛霊公第十五之四十一

「辞は達するのみ」

書 淵田瑞穂さん

「言葉というものは、相手に自分が伝えたい内容を十分に伝えるようにすることこそ大切。」という意味です。

私たちは、日常のなかで話し相手に、言葉を正しく伝えられているでしょうか。聞き手にわかりやすく話しているつもりでも、自分の気持ちや考えが正しく伝わらなかったり、間違った伝え方をしてしまうことがあります。

言葉は、年齢などの違いや、時間の流れなどで、意味や使い方に変化が生じます。日頃から、温かく思いやりのある言葉で、「伝える力」を養っていききたいものです。

Q1 藤樹とよばれたのはなぜ？

A1 藤樹さんが生まれた家に「大きな藤の樹」があったので皆が「藤樹」と呼びました。

Q3 どんな子どもでしたか？

A3 優しくて思いやりがあり、よく学び、活動的な子どもでした。人を助ける様な子どもでした。

Q4 大洲藩では活躍したの？

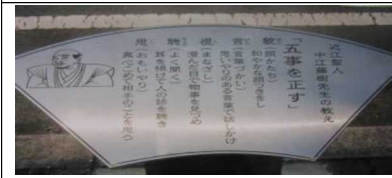
A5 19才で郡奉行になられました。大変、活躍されましたよ。門人もたくさんいました



藤樹書院所蔵

Q2 子どもの頃に米子に行ったのはなぜ？

A2 祖父が米子藩の殿様の家来で、後継ぎにしかかったからです。



Q5 27才で高島に戻ったのはなぜ？

A6 父が亡くなられ、妹が結婚されて母が一人暮らしになったので帰ってきました。

Q6 どんな「教え」がありますか？

A8 こんな教えがあります。「致良知」や「孝行」、「知行合一」、「五事を正す」等が有名ですよ。次号から少しずつ解説していきます。お楽しみに。

よえもん君、こんな生涯なんですね！

その2 植物と孝行

中江藤樹や記念館にまつわる豆知識のコーナー

前回は、『動物と孝行』についてお話ししました。今回は、『植物と孝行』について紹介します。

蘭・竹・梅・菊は、気品のある姿が君子（知性と礼節を兼ね備えた立派な人）にたとえられ、東洋の絵画や工芸品の題材として親しまれています。中でも竹は孝行と関連して、親孝行な人々を紹介した中国の古典『二十四孝』に登場しています。

孟宗という親孝行の青年は、早くに父親を亡くし、病気の母親と暮らしていました。ある冬の日、筍が食べたいと言った母親のために、孟宗は雪の降る中、竹林で筍を探しました。しかし当然筍は見つかりません。孟宗が泣いて天に祈ると、その思いが天に通じ、筍がよきよきと生えてきました。孟宗は喜び、母親に筍を食べさせることができました。このお話が、『孟宗竹（もうそうちく）』の名前の由来になっています。

職員だより

SDGsという言葉をよく見たり聞いたりします。環境を守りながら誰もが豊かに暮らし続ける取り組みのことです。

今から130年ほど前にSDGsに取り組んだ人が滋賀県出身の伊庭貞剛です。貞剛（1847年生まれ）は近江八幡市の出身で住友（現在の住友グループ）の第2代総理事（社長）です。住友は愛媛県別子の銅鉱山の経営で利益を得ていましたが、燃料の木材を得るため山林を伐採し、銅の精錬で多量の亜硫酸ガス（煙害）を出していました。貞剛は「自利利他（他人の幸せのために努力することが自らの利益にかなう）」の理念のもと、荒廃した山肌の植林に銅山から得る実に二年間の利益のすべてを費やし緑の自然を復活させました。作家江上剛は著書「住友を破壊した男」で伊庭貞剛の功績を取り上げています。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330